

水稻 直播栽培 情報

-第3号-

栽培管理のポイント

令和4年6月
氷見市農業技術者協議会

- (1) 今年は茎数の増加が早いため、遅れずに中干しに入りましょう。
- (2) 6月中旬までにいもち病の予防粒剤を散布しましょう。

1 中干しとその後の水管理

- (1) 茎数90~100本/mを確保したら、遅れずに中干し・溝掘りを実施する。
- (2) 中干し後は干し過ぎに注意し、足跡の深さが3cm程度となるよう幼穂形成期（7月下旬頃）まで間断かん水を行う。
- (3) 幼穂形成期以降は水稻が最も水を必要とする時期の為、出穂期（8月中旬頃）まで、飽水管理（足跡に水が残る程度の湿潤状態）を維持する。

2 いもち病対策

- (1) 昨年、出穂期が遅いほ場を中心にいもち病が散見されており、今年もいもち病の発生リスクが高いものと考えられる。そのため、必ず葉いもちの予防粒剤（オリブライト1キ粒剤）を6月中旬頃までに散布する。

3 雑草防除

- (1) 雑草の発生状況を確認し、除草剤を遅れず散布する。散布後7日間は止め水管理とする。
- (2) 落水状態で散布する除草剤の場合は、散布後2日程度降雨がない日を選んで散布する。

除草効果		除草剤名	使用時期	使用方法	使用回数
ノビエ	広葉雑草				
~4葉期	○	ワイドショット 1キロ粒剤	イネ4葉期~ 収穫45日前まで	湛水	1回 以内
~5葉期	○ (キウスメレI)	クインチャーバス ME液剤	播種10日後~ 収穫50日前まで	落水	2回 以内
~5葉期	○ (クサネム70cm)	ロイヤント乳剤	イネ3葉期~ 収穫45日前まで	落水	2回 以内